

市政トピックス

学校法人聖和学園より伊達家ゆかりの婚礼調度等が寄贈されました

4月8日、学校法人聖和学園より、仙台藩6代藩主・伊達宗村に嫁いだ8代将軍・徳川吉宗の養女、利根姫の婚礼調度とされる資料など3点が寄贈されました。「村梨地葵紋蒔絵調度」は、鏡台や櫛台など化粧道具類30点余りで構成される、豪華な蒔絵の婚礼調度群です。全体は光沢のある漆仕上げで、蒔絵の技法である梨地に満開の菊や葵紋などの装飾が施されています。伊達家ゆかりの調度がこれだけまとまって市内に現存するのは大変貴重です。そのほか、伊達家の旧蔵品であり、江戸時代の大名家で和歌がかかるた札として親しま



▲江戸時代中期から後期の調度品とされる村梨地葵紋蒔絵調度

市政トピックス

れていたことを示す「古今集歌かるた」と、昭和初期の伝統的な手仕事の技を伝える「雛人形および調度」も併せて寄贈されました。

今年、聖和学園短期大学が創立70周年を迎えるに当たり、記念事業の一環として寄贈されたもので、5月14日には、郡市長から同校に感謝状を贈呈。鈴木繁雄理事長は、「この歴史的な資料は、市民の皆さんと共有することで生きてくると感じていました。ぜひ伊達家調度の素晴らしさを実感してほしい」と話しました。

これらの資料は博物館で収蔵・保管し、広く活用を図っていきます。「村梨地葵紋蒔絵調度」は、6月20日まで開催中の企画展「仙台市博物館開館60周年記念祭 たつぷりわくわく名品展」で展示しています(詳しくは27ページ)。

市政トピックス

交通事故から命を守るために「春の交通安全運動を実施

4月6日から15日まで、通ルールやマナーの呼びかけを行う「春の交通安全市民総ぐるみ運動」を実施しました。今年も「子ども

市政トピックス

全国都市緑化フェアの開催に向けた検討を進めています

国内最大級の花と緑の祭典「全国都市緑化フェア」が、令和5年4月26日から6月18日まで本市で開催されます。これは「杜の都の環境をつくる条例」の50周年を迎えるに当たり誘致を進めてきたもので、本市での開催は平成元年に続き2回目です。



▲メイン会場となる青葉山公園追廻地区のイメージ

4月23日、全国都市緑化仙台フェア基本計画検討会が初めて開かれました。検討会は学識経験者や緑化に関する活動団体の代表など17人で構成。初会合では、イベントの愛称を「未来の杜せんだい2023-Fairyland Green!」に決定。さらに、メイン会場となる青葉山公園追廻地区や西公園南側地区、広瀬川地区の各会場のコンセプトや各種展示、実施

市政トピックス

最先端の映像技術を楽しみながら体験

イベントなどの基本的な方向性について議論しました。今後は8月までに基本計画を策定。その後、開催に向けた実行委員会を立ち上げ、具体的な準備に取り組んでいきます。

スリーエム仙台市科学館では、5月12日から、新しい映像投影の先端技術遊び感覚で体験できる「Magical Card」の展示を新たに始めました。この展示は、東北芸術工科大学、仙台高等専門学校、東北大学、地域企業が共同で研究開発した映像投影装置「アドレッサブルスクリーン」を使用しており、投影対象が動いても、ゆがみなく投影することができます。

プロジェクトから白無地のカードにトランプの絵柄を投影すると、カードを上下左右に移動しても、裏返しにしても、カードに張り付いているかのように映し出されます。カード型のスクリーンに絵柄が映し出されるため、映像を手で持っているかのような感覚を味わうことができます。

科学館の3階展示室内に常設で展示しています。不思議な映像を体験しに、ぜひご来館ください。

市政トピックス



▲自転車の安全な利用方法を確認する片平丁小学校の児童たち

と高齢者をはじめとする歩行者の安全確保」や「自転車の安全利用の推進」などを重点項目とし、警察署や交通安全協会などとともに、市内各地で安全な歩道の横断方法やシートベルトの着用等呼びかけるなど、啓発活動を行いました。

片平丁小学校では、4月15日に仙台中央警察署の協力の下、交通安全教室を実施。3年生と5年生は、自転車走行を疑似体験できる自転車シミュレーターを使った安全教室に参加しました。代表の児童が操作を行い、スクリーンに急な人の飛び出しなどの危険な場面が映し出されると、児童たちは真剣な表情で自転車に乗る際の注意点を学んでいました。体験後には、自転車の走行ルールや点検の仕方を再確認しました。1年生は実際の通学路で直接指導を受け、安全な横断歩道の渡り方を学ぶなど、交通ルールとマナーへの意識を高めました。

市政トピックス

地下鉄南北線新型車両のデザインが決定

令和6年度に導入を予定している地下鉄南北線新型車両の新しいデザインが、市民の投票により決定しました。投票は、南北線の開業から30年以上が経過し、車両の更新時期を迎えるに当たり、新型車両が長く利用者に親しまれるものとなるよう行ったもの。3つのデザイン案を作成し、3月9日から29日まで、駅構内に設置した投票箱やホームページによる投票のほか、南北線沿線の6つの小学校の6年生も投票に参加しました。総数1万2980票のうち、半数近くの票を獲得し決定したのは、「南北線車両からの進化」をテーマとしたデザイン。「杜の都」をイメージした側面上部の濃淡2色のグリーンのラインが特徴です。新車両は、製作、試運転などを経て順次運行を開始します。



▲①車頭は「く」の字の形で、現行車両を継承②ライトはグリーンの前面ラインと一体化させ、現行車両から進化したイメージを創出③側面上部はグリーンのためのラインを2本施しました

3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本をご紹介します。

未来に向け 世代を越えて語り継ぐこと

東北学院大学非常勤講師 志村 睦雄

「津波防災を考える」「稲むらの火」が語るもの」



伊藤和明 / 著 岩波書店 刊

「津波防災を考える」では、「人間は津波の発生を食い止めることはできないが、津波による災害は人間の努力次第で軽減することは可能です」と述べています。津波に関する正しい認識を持ち、備える心構えを失わなければ、津波による人的被害は軽減できます。

この認識と心構えを育てるには、未来を背負う子どもたちへの防災教育が極めて重要です。人間は忘れやすい生き物です。だからこそ世代を越えて語り継いできた「教訓」を防災教育に生かすことが大事です。

戦時中から戦後にかけて使用されていた教科書教材「稲むらの火」は、1年の収穫である稲むらを燃やしてまで津波から村人を救った五兵衛の物語を通し、人の命の尊さを教える防災の基本理念を伝えていきます。このような感動的な物語を通して

「あのひのこと」



葉祥明 / 画 文祥出版社 刊

訴えかけ、いざという時の迅速な判断や行動がいかに災害の軽減に役立つかを、子どもたちに伝えていくことが大切だと考えます。

古来より、幾度となく日本列島を襲った大災害にも耐え、人々は辛抱強く生き延び、再生してきました。今も2011年3月11日の大津波によって甚大な被害を受けた被災地で、人々は震災の経験を抱えながら、苦しみや悲しみを乗り越え生きています。「あのひのこと」の中で、少年は海で亡くなったおじいちゃんを思い、そして共に助かった子犬に「うみ」と名付けました。

それは、少年が自然を畏れ敬う心を忘れることなく、自然と共に生きることが、必ず未来につながると信じ、海を愛し生きていくと決めたからではないでしょうか。

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585